

追悼の辞

教授 本岡順二郎



名誉教授加藤渉先生は平成9年6月12日、81年の生涯を閉じられた。

先生は大正4年に駿河台校舎傍の神田淡路町1丁目観音坂下で生誕された。義兄の小野薫東大教授(日本の構造工学の祖の一人、日大専門部と大学院で教鞭を取られた)の強い影響により日大建築学科に進まれた。卒業後は満州国大陸科学院、現地召集、陸軍造船中隊でのコンクリート船(改D25型5000t)の設計、敗戦後の2カ年の辛酸の後、昭和22年に帰国され、助教授として理工学部にて奉職された。当時の建築学科教授陣は初代学部長佐野利器先生の流れを受けて東大系であったが、徐々に齋藤謙次先生を中心に本学出身者が建築学科の教育を担うようになった。理工学部長齋藤先生が急逝されてからは加藤渉先生が学科のリーダーとして主任の12年間、学部のリーダーとして学部長の12年間を活躍された。

先生はその先見性、決断力、実行力から諸大学に先立つ多くの仕事をされた。海洋建築工学科の設立、社会人の大学院受入れ、企画経営コースと不動産科学専攻の設置の外、3000t大型構造物試験機に代表される大型研究設備の整備、クウェート大学および西安冶金建筑学院(現西安建筑科技大学)との学術交流の締結などは先生がなされた仕事の一端である。

研究の面では、前期は土質力学とシェルの研究であり、日本初のスパン40m球形シェル鶴見倉庫(昭和25年)に始まる多くの実施例がある。後期は

海洋工学に関する一連の研究があり、後に建築学会大賞を受賞されている。

先生の古稀を記念して「渉」が出版されているが、この中で先生の身近な人々40名が敬愛する先生を語っている。ロマンチストで、豪放磊落で、優しく、人使いが荒くて、信仰深くて、歌が下手で、走り続けた先生は、私達の心に生き続けることでしょう。

同書冒頭に先生が書かれた「天翔ける！ わが夢」の一節を再録して、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

「後についてくる若者達よ！ 海へ かぎりなき宇宙へ それぞれの夢をのせて翔んで翔べ!! 翔べ!!

若者達よ！ いつの日にも我れここに在り、見守り支えつつ、世のため人のためと、希望と情熱を失うことなく、翔んで翔んで！ 翔んでゆけ!!

天翔けるわが夢に祝福あれ!!

そしてこの世で私の最も苦手の「愛」に己を捧げ、己に挑戦しつつ、二十一世紀にむけて神と共に勇ましく進軍ラッパを吹き鳴してゆこう!!」

加藤 渉先生略歴

大正4年8月15日生

[学歴]

昭和12年3月 日本大学予科卒業
昭和15年3月 日本大学工学部建築学科卒業
昭和32年11月 工学博士(日本大学)
昭和48年3月 名誉工学博士(大韓民国漢陽大学)
昭和60年9月 日本大学名誉教授

[職歴]

昭和15年4月 満州国新京特別市大陸科学院研究士
昭和22年8月 日本大学工学部(現理工学部)助教授
昭和33年3月 日本大学理工学部教授
昭和36年4月 建築学科教室主任(12カ年)
昭和46年12月 理工学部次長
昭和48年7月 理工学部長(4期12カ年)
昭和49年4月 日本大学理事
昭和54年3月 日本大学副総長
平成4年1月 日本大学顧問

[学会等]

日本建築学会副会長、科学技術庁海洋開発審議会専門委員、日本学術会議会員(第11期)、土質工学会会長、国連ユネスコIOC諮問機関ECOR日本委員会委員長、同日本代表国際会議理事、国連ユネスコ国際海洋工学教育トレーニング会議極東代表、日本工業教育協会・日本科学協会・日本不動産学会・米国パシフィックコングレスインターナショナル各理事、日本建築学会・日本鋼構造協会・土質工学会各名誉会員、その他

[受賞等]

昭和35年5月 日本建築学会賞(シェルに関する一連の研究)
昭和54年10月 土質工学会功労賞
昭和63年11月 勲3等旭日中綬章受章
平成3年5月 日本建築学会大賞(建築学の海洋工学への参加活動における長年の多大な功績)